

第三回 高一国語

総評

評論、小説、古文、漢文について、苦手な分野を作らず、バランスよく国語の力を伸ばしていきたい。高一の現時点では、古文・漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。古典で思うように得点できなかった人は、まず、単語の意味や文法事項、句形の知識などの基礎をしっかりと身につけよう。基礎固めがこの先の伸びにつながるので、今回間違えたところはきちんと復習しておくことが大切だ。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
(e) 「完璧」の「壁」を「壁」とする誤りが非常に多かった。

(二) これは易しかったようだ。よく出来ている。

(三) 「採点基準」

「a 商品の選択の基準に対するこだわりがなく、ある程度の商品でも満足できる」と説明して

* a 6点、b 4点。 — 10点
b 部で、「購入した商品に満足できる」とことごとく

まり、その商品が「ある程度のものであってもよいことまで説明できていない答案が多かった。『最高の商品』を求めるマキシマイザーに対比されているのだから、この点は明確にしたい。

(四) (エ)という誤答が多かった。ここで述べられているのは専ら商品選択に関わることであり、「独自の人生観」というのは、やや言い過ぎである。

(五) 「採点基準」

「a 人々が、b 自分が購入したものよりも良い商品があったという後悔に耐えつつも、c 企業の提供する画一的な文化に満足せず、d より良い生活を求めて自由に商品を探そうとする社会」と説明して

* a 1点、b 4点、c 4点、d 5点。 — 14点
「人々がサテイスファイサーではなくマキシマイザーとして行動する社会」では説明になっていないし、字数も大幅に足りない。そこでそれぞれに説明を加えようとするのだが、「サテイスファイサー」に関する説明はここでは必要ないことに気づいてほしい。これを盛り込んでしまったために、必要な要素を落としてしまった答案が多かった。

(六) 問題文全体が対象となる内容合致問題で、選択肢が三行と長く、問題文の該当箇所と比較して丁寧に検討する必要がある。誤答としては(A)が目立った。解説をよく読んで復習しておこう。

二 小説

(一) 「採点基準」

「a 着物に着がえた心地よさから、思わず普段と同じようにふるまってしまったことで、自分がb 母の死に悲しみを感じていないことを c 兄達に気づかれたのではないかと恐れたから」と説明して

* a 5点、b 3点、c 4点。 — 12点
大枠は捉えられているものが多かった。中には、傍線部直後の一文「……不覚にも習癖を動作させたのだ。」までの内容で答案を作っているものもあったが、さらに次の一文も押さえる必要がある。

(二) よく出来ている。

(三) 「採点基準」

「a あえて誤解を招く言い方をするので、自分がb 母の死に衝撃を受け、食欲をなくしている」と兄に思わせること」と説明して

* a 2点、b 6点、c 2点。 — 10点
「いえ、いいんです」という言葉の意味、すなわちa 部を押さえられていないものが多かった。

(四) よく出来ている。

(五) (イ)(ウ)という誤答が目立った。「母に対する感謝の念」「母が様々なものから守ってくれていた」というのは、母を亡くしたときに湧いてきそうな思いではある。しかしそれは、一般的に、ということではある。

あつて、ここではあくまで問題文に即して考えなければならぬ。

(六) (イ)という誤答が散見された。『僕』の姿に「批判的」な感情を持った読者はいるだろうが、作者が「批判的に」描いているとは言えない。

古文

(一) まずは動詞を正しく抜き出せたかどうか、振り返っておいてほしい。

(二) (z) 「あなかしこ」が難しかったようである。

(三) ここで間違えた人は、問題文のあらすじを捉えられていなかったということになる。

採点基準

「生活に困った者などと名乗るので、b 気の毒であるから c 少しでも差し上げたいけれども」と訳して — 8 点

* a 3 点、b 2 点、c 3 点。

「名乗れば」の「ば」、「いとほしさに」の「に」を正しく訳出できていないものが多い。

採点基準

「伊佐の入道ほどの者が、b 海賊に遭い縛られて、荷物を奪われたと c 言われるのは不名誉だから」と説明して — 8 点

* a 2 点、b 3 点、c 3 点。

傍線部自体の解釈を誤つたと思われる誤答が多かつた。傍線部の意味を正しく捉えられていたか、振り返っておいてほしい。

採点基準

(六) (i) 「自分を伊佐の入道だと名乗っている点」と説明して — 5 点

「伊佐の入道になりすましている」「自分が伊佐の入道である」などでも可。

* 「実は伊佐の入道ではない」「実際はただの講師である」など、事実のみを説明したものは -3 点。

採点基準

(ii) 「兵士が多くいるように振る舞っている点」と説明して — 5 点

* 「船に大勢いるように話している」など、〈兵士〉という点が明確でないものは -1 点。

* 「船には兵がいること」など、〈見せかけている〉意を欠くものは -2 点。

(i) で「多くの戦を生き抜いた」とするものがあつたが、それだけでは海賊は逃げ出さないうらう。

(七) 誤答は割れている。正しく読めた人が少なかつたことの表れだろう。

漢文

(一) いずれも基本的なものである。間違えた人はこの機会に覚えておこう。

(二) (v) の出来がよくなかつた。

採点基準

(三) (i) a 奈何ぞ b 廷に(一) c 廷尉を辱むる(や) (と) と書き下して — 4 点

* a 1 点、b 1 点、c 2 点。

採点基準

(ii) a どうして b 宮廷の中で c 廷尉に恥をかかせた a のか(と) と訳して — 4 点

* a 2 点、b 1 点、c 1 点。出来ていない。せめて「奈何ぞ」ぐらいは正しく押さえないところである。

採点基準

(四) a 自分の年齢と身分を考えると、b 生きていくうちに c 張廷尉のためになることはできそうもないということ」と説明して — 6 点

* a 2 点、b 1 点、c 3 点。これも出来ていない。

(五) (i) 「積之……結之」という誤答が多い。積之は、王生の臣であるわけではない。

採点基準

(ii) a 裁判の議決にあたるときは、b いつも c 公平な判決を下した」と訳して — 6 点

* a 2 点、b 1 点、c 3 点。

(六) 選択肢に対語が並んでいたからか、AB に入る語も対語でなければならぬと思つてしまった人が多かつたようである。